２０２１年8月２１日（土）

老球の細道６２６号

尊敬するコーチ新井春生先生との出会い⑦（最終回）

会津バスケットボール協会　室　井　冨　仁

真の名将は例外なくたくさんの指導語録を携えている。山崎先生しかり、新井先生もまたしかりである。特に新井先生は語録をベースにしたスピーチが面白くて、大変ためになった。誰もが先生の話に引き込まれ、だんだんと体の重心が前になり、迫ってくる聞き方になっていた。先生は常日頃から言っていた。「迫ってくる聞き方が本物で、勝たせる指導者、選手のマナーである」と。私の話を聞く子どもたちの姿を思い起こすと赤面である。

先生の著書『高き理想を求めて』の中に収められている指導語録から、特に感銘を受けた言葉をピックアップしたものを紹介する。私もあちこちで利用させてもらっている。

◆「目標のレベルがチームのレベルである」

県代表で甘んじているチームは全国大会で上位入賞は望めない。

◆「熱心なことは最低レベルである」

毎日目標に向かって汗を流している者であれば不熱心な者はいない。熱心は最低レベル（県代表）どまりである。見ていられないほどの練習であれば全国優勝する。

◆「コートに急ぐ足どりで、その日の練習密度がわかる」

今日成し遂げたい目標、今週中に到達したい目標、努力の成果により、体育館に急ぐ足どりとなる。

◆「言い訳は努力の不足の表現で、それ以上は進歩しない」

勝たせられない指導者の言い訳は、選手の素材が良くないから、学校に理解がないから、体育館が十分に使えないから等言い訳は尽きない。周囲の非難に対しては耐えるのみ。

◆「練習とは、できないところの反復であって、できるところの繰り返しではない」

得意なプレイは上達するが、不得意なプレイは練習回数も少なく、進歩も遅い。不得意なプレイに時間をかけ徹底する必要がある。

◆「栄光への道は限りなく遠い、しかし、今日の一歩で近くなる」

日本一になろうとすれば、すべての行動や考え方が日本一にならなければ目的を果たすことはできない。毎日の懸命な練習の積み重ねにより、一ミリずつでも前進して栄光への夢が可能となる。

◆「２時間の全体練習も一人１０分間の自由練習では、ボールに触れる時間は、あまり変わりはない。個人プレイの上達には、フリー（個人）練習しかない」

フリー練習は長時間できるものではない。本練習の前後に３０分間の練習で十分である。１日２４時間の中で、個人練習時間をつくる工夫をすべきである。

◆「有言実行は勇気がいる。できなければ信頼を失うことになる」

心の中でいくら考えていても前進はしない。皆の前で決意表明したなら、やるしかない。不言実行のできる人はすばらしい。有言実行は、できなければ信頼を失うから頑張れる。